

＜主催挨拶＞

東京という都市空間を舞台に、子どもから大人まで、あらゆる世代の方々が日常の中でアートに触れ、親しんでいただける機会を創出するため、2026年10月から、国際美術展「TOKYO ATLAS」を開催いたします。

芸術文化は、都市に不可欠なインフラであり、私たちの心に希望と癒しをもたらす重要な存在です。コロナ禍以降、東京都は、創作場所を確保することが難しい若手アーティストにアトリエを提供するなど、アーティストの様々な活動を継続的に支援してきました。

世界的なアーティストが参加する国際美術展「TOKYO ATLAS」においては、未来を切り拓く若手作家による特別展も展開し、東京のアートシーンを、かつてないほど力強く世界へと発信してまいります。

美術館という枠を超えた空間で展開されるこの美術展が、都市が秘める可能性を引き出し、見慣れた風景の見え方までも変えていく、すなわち、東京という都市を読み解く新たな「地図帳」となっていくことを期待するとともに、世界中から東京を訪れるすべての方々に、東京の魅力を再発見していただけることを願っています。

2026年、東京が新たなアートと出会い、都市としてどんな進化を遂げるのか。ぜひご注目ください。

東京都知事

小池百合子

この度、2026年秋、東京にて新たな国際美術展「TOKYO ATLAS」を開催する運びとなりましたことを、実行委員会を代表してご報告申し上げます。

今回会場となるのは、幕末の砲台跡に始まり近代以降は都市開発の象徴として再生されてきた台場、物流とテクノロジーの拠点として発展してきた青海、倉庫街から文化・創造産業の集積地へと変貌を遂げた天王洲。いずれも東京湾岸に位置し、江戸・東京の歴史と変遷を象徴する場所です。

日本の首都として高度に発展し、ある種、飽和状態にある大都市において、本美術展は地域固有の文脈を踏まえながら、アートの力で人々の感情や本能を呼び覚まし、時に驚きや困惑をもって私たちに揺さぶりを与えてくれます。こうした刺激が新たな社会的価値と未来への活力を生み出していくます。

とりわけ若い世代の皆様にとって、作品に触れ、知るという経験が、自己の現在地を認識するための「地図帳」となることを願っています。

今後、開催に向けて詳細な情報を順次発表してまいりますので、皆様のご関心とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

東京国際芸術祭実行委員長

青柳 正規